

マスク着用の個人判断に医師は懸念も・

3/13 北陸朝日放送



<https://news.yahoo.co.jp/articles/04282019bf3f6eeb16ab680938ff6d9c7724dc04>

マスク着用のルールが変更される一方、診察の最前線にいる医師は、マスク着用に対する誤った認識が広がることを懸念しています。

加賀市山代温泉にある、ながたクリニックの院長、永田理希さん。

マスク着用が個人の判断に委ねられても、マスクの着用が感染防止対策として効果的であることを強調します。

特に、医療機関の受診時には引き続きマスク着用を心がけてほしいと訴えます。

厚生労働省は医療機関の受診時や混雑した公共交通機関を利用する場合などはマスクの着用を推奨しています。

今のオミクロン株への集団免疫まだ…専門家「マスクは無理して外す必要ない」感染拡大ぶり返す可能性も 3/13 富山テレビ

13日から変わったマスクの着用について、あらためてまとめました。



これまで政府は屋外では原則不要、屋内では人との距離が確保できる場面などを除き、原則、着用を求めてきました。これには法的拘束力はなく、政府が「基本的対処方針」に基づいて要請してきた形ですが、13日からは屋内外とも「個人の判断」に委ねられることとなります。では、こういった場面でマスクが必要か。厚生労働省が判断の参考となる場面を

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a0084b7ae483fe1bedf0cc0fc5e5f429317ad3b8>

3つ示しています。

1. 医療機関を受診する時
 2. 医療機関や高齢者施設などを訪問する時
 3. 通勤ラッシュ時など混雑した電車やバスに乗車する時
- となっています。

このほか、重症化リスクの高い人が、流行期に混雑した場所に行く時にもマスクが効果的としています。

一方、せきなどの症状がある人や同居する家族に感染者がいる人は、そもそも外出を控え、通院などやむをえず外出する場合は人混みを避け、マスクを着用するよう求めています。

県衛生研究所の大石所長は、13日から始まったマスクの個人判断について、「慌てて外す必要はない」と指摘します。

＊県衛生研究所 大石和徳所長「大事なことは、感染対策の緩和ありきではないということ。(県内で新規感染者は)今でも1日100ぐらいは報告されている。ある程度の感染者はいて、リスクがあるわけなので、リスクを感じる場面にはやっぱりマスクをする。無理して外す必要はない」

大石所長はその理由として、今のオミクロン株に対する集団免疫は出来ておらず、今後、感染拡大がぶり返す可能性は大いにあると話します。

＊県衛生研究所 大石和徳所長「(感染状況は)正直大きく変わっていない。もう少し明確な変化が見えるまで、自分で納得いくまでマスクをつけていいし、そこが個人の判断だと思う。移行期間と考える。13日から外せるではなく、時間をかけて外していく準備ということ」